



天井空間を見る。梁の高さはFL+1.5mほどで、座ると視線が通り、立つと梁が視線を遮る。



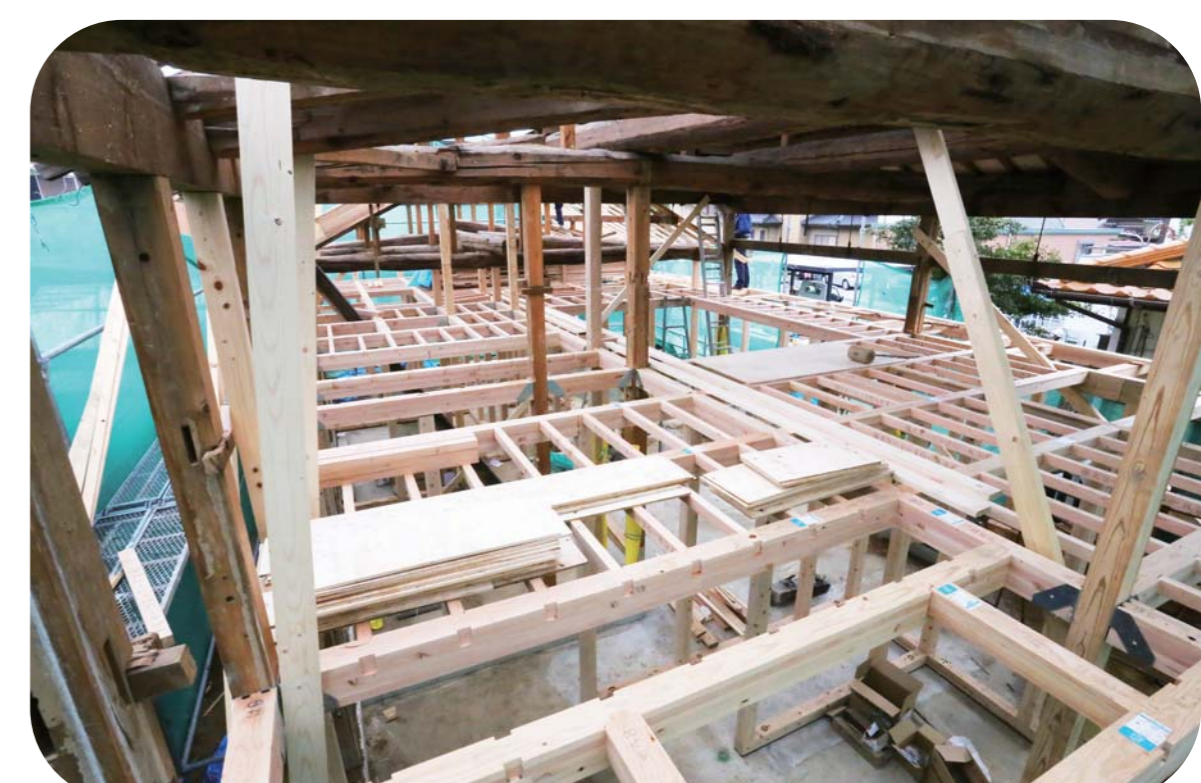
1. 3人家族が生活する、旧耐震基準の築50年の木造平屋建住宅



2. 部分解体：一度スケルトンにし、部材の確認と寸法調査



3. 揚家をしながら、現行基準に合致する基礎を新設



■モデルによる構造検討



4. 建方：旧構造材を補強するように、新材を挿入する  
→ 既存柱の座屈長さを短くすると同時に、中間階の地震力を外周部に伝達する(耐震補強)



5. 現行基準を満たしながら、旧構造材を使用した住宅



前面道路から見る。これまで隠れていた天井空間が表出され、街並みに奥行きをつくりだしている。町並みにゆるやかな関係性の変化を与え、古いものが有する価値を問いかける。



上に天井空間、下にリビング・ダイニングを見る。夜は下からの光が天井空間・小屋組みを照らす。



アプローチ。1Fと天井空間が対称的な外観。

寝室を見る。古いものと新しいもの間での生活。

左から、玄関、リビング・ダイニング、キッチン

天井空間から光の射し込む和室



外部に開放された天井空間。周囲からの視線に配慮して高さや開口サイズを設定している。

House NI - 裏とオモテと境界 - 古き良きものと新しいものが補填し合うことで生まれる、新しいリノベーションタイプの提案

敷地は周囲が開発が進む市街化調整区域にある。古いものが廃棄され風景が塗り替えられていく中で、単に残すでもなく更新する訳でもない、長時間そこにあったものが有するエスプリの最大化をもって、都市のスクラップアンドビルトに対する1つの解を提示する。

本計画では、既存の木造平屋住宅がもつ1階・天井空間・境界(天井面)の関係性を読み替えを行った。具体的には、既存住宅の軸組だけを残して部分解体した後、柱間に新設梁を挿入し、耐震補強を兼ねた水平面を形成した。それにより、プライバシーの保たれた1階・明るく開放された天井空間・上下をつなぐ境界(天井面)を新たに作り出した。

天井空間は、新たな境界(床)と既存の屋根・梁組みの関係性によって成立する。そこに具体的な部屋名は無く、柔軟に振舞うことが可能であり、1階では収まりきらない生活の補填を担う。また、四周を開口することで光と風を1階へ届ける。過去に閉じられていた暗くて大きな天井空間が町に開かれ、住人と町との適度な距離感を生むと共に、町並みの一部となり古いモノの価値を町に訴えかける。

1階には施主の要望であるプライバシーの保たれた個室を配置している。境界(天井)の開口により内外のつながりや通風、採光等を生み、1階の住環境を補填している。

